

TYCA Vol.5 報告

日本と ASEAN の高校生が日本に一堂に会し、日本に対する ASEAN 諸国の学生の関心を高めるとともに、将来のアジアの展望についてともに考える機会を提供することを目的として、Toshiba Youth Club Asia Vlol.5 を 3 月 20 日～27 日の 8 日間に渡り開催しました。5 回目となる今回は、カンボジア、ラオス、ミャンマー、フィリピン、ベトナム、タイの 6 か国から高校生 12 名、(各国 2 名) と、各国の元留学生協会のアドバイザー 6 名、日本からは高校生 6 名と教員 5 名が参加しました。期間中、参加者たちは各国混成の 4 つのグループ (T、Y、C、A) に分かれ、「2040 年のアジアの” —Vision—」をテーマに、国立オリンピック記念青少年総合センター (オリンピックセンター) を拠点として、様々なプログラムに取り組みました。

初日は、ASEAN からの参加者が午前中に到着。午後から、オープニングセレモニーを開催。TIFO 代表からの歓迎の挨拶が行われました。

2 日目は、まずは日本についての紹介からスタート。続いて、事前課題について各自発表を行いました。その後、T、Y、C、A の 4 つのグループに分かれ、各グループで、アジア各国が抱える社会問題や環境問題を共有し、共通項目や問題点が何なのかを話し合いました。



お互いを知り、アジアの多様性を学ぶ

次に、国連の SDGs (持続可能な開発目標) についての説明とワークショップを行ったあと、SDGs を共通の思考の枠組みとして使い、各チームが取り組みたいテーマを設定しました。

3 日目の午前中は、東京都水道歴史館を訪問。江戸時代に始まる日本の上下水道の歴史と技術・設備について学びました。午後一は、駒澤大学の石橋直樹講師により、技術の歴史と社会の変革に関する講義が行われました。その後、東芝未来科学館を訪問し、最新の科学技術の他、東芝の創業者である田中久繁が製作したからくり人形の実演や、東芝が開発した日本初あるいは世界初の製品(1号機)を見学しました。



東芝未来科学館訪問

4 日目の午前中は、国連大学上級副学長の沖教授より、SDG s の多くの目標と関連する「水」をテーマとした講義が行われました。午後からは、環境問題と経済の関係について学ぶワークショップを実施しました。このワークショップでは、福沢諭吉文明塾の塾生により開発されたゲーム型教育ツール『Logy&Nomy』を使用しました。『Logy&Nomy』はプレイする中で、「経済活動」と「環境対策」を両立させ、その相互作用と持続可能性を意識しながら自分の国を更なる発展へとどのように導いていけばよいかを自然と学習することを目的として開発されたものです。参加者たちはゲーム感覚で楽しみながら、持続可能な社会の実現のヒントを見つけたようでした。



Logy & Nomy ゲーム

5 日目の午前中は ASCOJA Advisor's Session を実施し、各アドバイザーが各国での生い立ちやそれぞれの国で起きている問題を紹介し、日本と各国の違いや共通点について説明がありまし

た。午後からは、T、Y、C、Aの4つのグループ毎に「Vision」について検討しました。夕方には、共同主催者であるASJAインターナショナルの国費留学生（大学生、及び大学院生）によるアジア留学生の日本での生活に関する紹介があり、高校生は先輩達の話に真剣に耳を傾けていました。

6日目は、成果発表会の発表に向け、プレゼンテーション資料の作成に取り組みました。グループワークの合間を縫って、近隣の明治神宮の杜を訪問。都市と自然の共生について学びました。

7日目の午前中は、この1週間で積み上げてきた学びと成果を発表する成果発表会と閉会式が行われました。TIFOの会長である室町正志氏は、生徒たちの努力に感謝の意を表して開会の辞を述べました。日本の外務省、アジア各国の大使館代表の皆様他、来賓を前に、グループ毎に、共通テーマである「2040年のアジアの”—Vision—」に基づいて作成したプレゼンテーションを行い、自分たちが考えるアジアの将来像について発表しました。



TIFOの室町理事長挨拶



コミュニティを基礎とした教育システムについてのTグループの発表

以上のように1週間という限られた期間ではありましたが、高校生たちの積極的なプログラムへの取り組みとアドバイザーによるサポート、熱い討議を通し、7カ国の高校生とアドバイザーが一体となり、大きな成果を上げることができました。